

看護管理 第30巻 総目次

2020年(1～12月号)

表示は、著者名：題名、号数、掲載ページ。

特集

1月号

30巻記念寄稿特集 30人が振り返り展望する 看護管理の現在・過去・未来

『看護管理』30巻の歩み、1、14-15.

【寄稿】看護管理の現在・過去・未来

秋山智弥、井川順子、市川幾恵、井部俊子、ウィリアムソン彰子、上野栄一、金井 Pak 雅子、叶谷由佳、勝原裕美子、上泉和子、川村佐和子、菅田勝也、小池智子、坂本すが、佐藤エキ子、佐藤紀子、嶋森好子、末安民生、武村雪絵、鶴田恵子、手島恵、任和子、林千冬、福井トシ子、別府千恵、前田樹海、松浦正子、松月みどり、宮子あずさ、山田雅子：1、16-45.

林田秀治：【コラム】むかし編集者いまとときどき農夫—『看護管理』創刊時の編集担当者から、1、46.

2月号

人を生かし自分を活かす 意思決定支援とACP 話し合いの手引き

木澤義之：「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」と意思決定支援のプロセス、2、108-112.

木澤義之：アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは何か、2、113-116.

森雅紀：国内外のACPのエビデンスを読み解く、2、117-127.

竹之内沙弥香：重篤な病気を持つ患者との話し合いとその課題について—ACP支援のプログラムSICPの意義とエビデンス、2、128-139.

竹之内沙弥香：「患者との話し合いの手引き」を用いた話し合い—具体的方法・手順と留意点、2、140-152.

竹之内沙弥香：領域別「意思決定支援とACP」—読み方ガイド、2、153.

松本繁巳：ゲノム医療時代の進行胃がん患者に対する意思決定支援、2、154-159.

任和子、横田香世：糖尿病性腎症を持つ人とその家族への「透析の見合わせ」に関する意思決定支援、2、160-167.

江口恵子：遺伝性乳がん患者に対する意思決定支援—新たな治療薬の開発に伴う倫理的な「話し合い」のプロセス、2、168-177.

3月号

“ムダ”を省き、看護サービスの質を高める セル看護提供方式

須藤久美子：セル看護提供方式とは何か—“ムダ”を省き、ケアの受け手の価値を最大化するための“カイゼン”、3、212-220.

須藤久美子：セル看護提供方式での現場マネジメントの変化、3、221-225.

須藤久美子、森山由香、倉智恵美子、溝田智美、小松加寿子、和田麻美、藤井美保、日置由季、塔野史子：セル看護提供方式におけるマネジメントの実際、3、226-235.

倉智恵美子：【コラム】試行当時の導入病棟における看護師長の実践—どうしたら看護師は患者のそばにずっといることができるのか、3、236-237.

須藤久美子、森山由香、倉智恵美子、溝田智美、小松加寿子、和田麻美、藤井美保、日置由季、塔野史子：セル看護提供方式における業務の流れ、3、238-244.

佐野マスミ、織田佐知子、桜間知佐子、築山久美子、小林英見、青山麻美：【実践報告】トヨタ記念病院の取り組み—トヨタ記念病院における看護提供方式の見直し—「患者さまのそばで優しい看護」を目指して、3、245-250.

翁長多代子、仲宗根ゆかり：【実践報告】中頭病院の取り組み—先取り看護を目指して—病棟移転に伴う急性期病院でのベッドサイドケアの充実、3、251-255.

木川真由美：【実践報告】額田病院の取り組み—セル看護提供方式導入による変化—ケアミックス病院で起きた行動変容と、看護の質向上の取り組み、3、256-261.

岩崎真由美、福島由美、上田梨絵：【実践報告】谷田病院の取り組み—慢性期病院でのセル看護提供方式の導入—限られた勤務時間内で最高のパフォーマンスを発揮するためのムダ取り・カイゼン、3、262-267.

4月号

看護記録の効率化 働き方改革の中でケアする時間をどう捻出するか

瀬戸僚馬：今求められる看護記録と今後の展望、4、324-329.

高木智美、別宮尚美、高野弘栄、吉田仁美、中尾彰宏、水流聡子：PCAPS導入による看護記録の効率化、4、331-337.

内堀由美子：看護記録ツールマスター HCbooksの活用と看護記録の効率化、4、338-341.

船田千秋：電子クリニカルパスの機能を使って進化する看護記録. 4, 342-348.

正田智子：【実践報告】京都大学医学部附属病院の取り組み—ITを活用した看護記録の効率化. 4, 349-353.

森口真由美：【実践報告】北原国際病院の取り組み—音声入力とAIを活用した看護記録業務の短縮と質の向上. 4, 354-357.

矢嶋知己：【実践報告】札幌道都病院の取り組み—ベッドサイドで効率的に記録を行うためのインカム使用とICT活用—記録効率化と看護師間コミュニケーションの両立. 4, 358-362.

5月号

今こそ再考したい事業継続計画（BCP） 地域医療とスタッフをどう護る？

石井美恵子：【インタビュー】業務継続計画（BCP）に基づく医療機関の災害・危機対応—病院に「経営継続」の視点を. 5, 418-425.

石川真理子, 羽場裕, 佐藤拓：【実践報告】聖路加国際病院の取り組み—多職種による実効性の高い事業継続計画（BCP）策定と危機に強い組織文化を醸成する取り組み. 5, 426-433.

森田浩史, 林智美：【実践報告】福井大学医学部附属病院の取り組み—大雪により生じた交通障害に起因する帰宅困難者対応と業務継続について. 5, 434-439.

高田綾子：【実践報告】砂川市立病院の取り組み—BCP発動の経験をさらなる改善に活かす—医療安全管理者の立場から. 5, 441-445.

木下恭子：【実践報告】三重県立総合医療センターの取り組み—多職種によるBCP策定—バージョンアップに向けた課題と展望. 5, 446-450.

6月号

一般病棟における身体拘束をしない看護の実現 入院患者 552 名の実態調査と質の高いケア事例から考える

桐山啓一郎：企画の背景—身体拘束最小化に欠かせない看護管理者の強いリーダーシップ. 6, 508-510.

桐山啓一郎：一般病棟での身体拘束最小化に向けて—入院患者 552 名の実態調査の結果から現状の課題と改善策を考える. 6, 511-517.

松下年子：医療行為と高齢者虐待. 6, 518-522.

佐藤晶子：【実践報告】聖隷三方原病院の取り組み—病棟管理者としての身体拘束ゼロの実現—病棟風土の変革プロセスとスタッフ育成の実際. 6, 524-528.

河端裕美：【実践報告】脳血管研究所附属美原記念病院の取り組み—経鼻胃管カテーテル自己抜去リスクの高い患者に対する身体拘束解除の取り組み. 6, 529-533.

小林みゆき：【実践報告】南奈良総合医療センターの取り組み—1人ひとりの患者の持てる力を活かすケアが身体拘束

減少を導く—勉強会とカンファレンスによる身体拘束解除に向けた取り組み. 6, 534-537.

池内勝継：【実践報告】奈良県立医科大学附属病院の取り組み—夕方の足浴で安眠を促し身体拘束を減少させた取り組み—基本的な看護技術がもたらした価値を考える. 6, 538-541.

新田和子：【実践報告】リエゾンナースと病棟看護師の協働による身体拘束最小化—せん妄の症状コントロールの視点から. 6, 542-545.

日向園恵, 長島幸子：【実践報告】石巻赤十字病院の取り組み—身体拘束ゼロへの取り組みがかなえた病棟全体のパフォーマンス向上—専門看護師とリンクナースの実践から. 6, 546-551.

7月号

「重症度、医療・看護必要度」を俯瞰する 実態を把握し、マネジメントや質評価の鍵を探ろう！

林田賢史：診療報酬制度における「重症度、医療・看護必要度」のこれまでと今後. 7, 602-608.

林田賢史：入院患者の重症度、医療・看護必要度の実態—2016年と2017年のデータから見えてきたもの. 7, 610-617.

林田賢史：入院相対日から見る重症度、医療・看護必要度該当患者割合の実態（DPC別）. 7, 618-624.

森脇睦子：重症度、医療・看護必要度の評価法ⅠとⅡの差異に注目して—急性期医療機関750施設の分析結果から. 7, 625-631.

森脇睦子：評価法ⅠとⅡの差異から個別の医療機関における改善点を探る. 7, 632-637.

森脇睦子：一般病棟用「重症度、医療・看護必要度」関連データの変化—2020年度診療報酬改定における評価項目および判定基準の変更を基に. 7, 638-642.

秋山智弥, 林田賢史, 森脇睦子：【座談会】「重症度、医療・看護必要度」を看護マネジメントに活かす—現場の実態を反映したデータに基づく適切な質評価を目指して. 7, 644-652.

8月号

データを用いた現場の可視化で、組織の質を高める！ 北里大学病院の情報マネジメント

別府千恵：看護部の情報マネジメント—現場のデータをどう活かすか. 8, 702-707.

清水将統：情報担当看護師の役割と実践. 8, 708-716.

清水将統：目標管理におけるインディケータの活用—情報担当看護師による看護管理者の支援. 8, 717-725.

嶺本君江, 池田幸子, 清水芳, 中嶋弘美, 番匠章子, 横山利香, 横溝育美：【実践報告：部署のデータ活用1】ローテーション支援ツール. 8, 726-731.

工藤久美子：【実践報告：部署のデータ活用 2】重症度、医療・看護必要度データの活用. 8, 732-735.

河田多加：【実践報告：部署のデータ活用 3】看護補助者の年次有給休暇取得—「勤務時間簡易計算表」を用いた、病棟を越えた勤務表作成. 8, 736-740.

金原純司：【実践報告：部署のデータ活用 4】労務管理：有給休暇取得の推進. 8, 741-746.

桃園忍：【実践報告：部署のデータ活用 5】労務管理：時間外勤務の削減. 8, 747-753.

9月号

危機のマネジメント 新型コロナウイルス感染拡大第1波への各組織の対応

本館教子, 三田由美子, 熊木孝代, 山下将志, 津田泰伸：【座談会】COVID-19 重症患者の受け入れとマネジメント—聖マリアンナ医科大学病院の取り組み. 9, 796-803.

大柴福子, 關本翌子, 森文子, 木村麻紀, 中濱洋子：【座談会】感染症病棟を開設したがん専門病院の対応と葛藤—国立がん研究センター中央病院の取り組み. 9, 804-811.

浅香えみ子, 小松佳子, 井桁洋子, 岡林紀恵：【座談会】東京医科歯科大学医学部附属病院の取り組み—COVID-19 への対応を契機にした組織変革—顕在化した組織の特長と課題. 9, 812-819.

勝見真澄, 千葉美恵子：【実践報告】市立札幌病院の取り組み—COVID-19 患者受け入れにおける管理者のマネジメント—感染症指定医療機関としての使命を果たすために. 9, 820-825.

藤野正子, 鈴木千晶, 井出由起子, 川島孝太：【実践報告】りんくう総合医療センターの取り組み—特定感染症指定医療機関としての平時からの備えと緊急時のマネジメント. 9, 826-831.

久米淳子：【実践報告】常滑市民病院の取り組み—新型コロナウイルス感染症と最前線で闘った看護師を支える—中規模自治体病院からの報告. 9, 833-839.

緊急読者アンケート結果報告—未知の状況に直面し、看護管理者は何を考え、どう行動したか. 9, 840-849.

10月号

スタッフの自律的な成長を促す 1on1 ミーティング「経験学習」を日常化する人財育成の仕組み

本間浩輔：スタッフの自律的な成長を促す「1on1 ミーティング」—「経験学習」を日常化する人財育成の仕組み. 10, 894-903.

本間浩輔：誌上ケースで考える—“スタッフのための” 1on1 ミーティング. 10, 904-908.

森河琴美：【実践報告】札幌医科大学ハビリテーション病院の取り組み—中間管理者のリフレクションの場として始まった 1on1 ミーティングの効果. 10, 910-913.

福島俊江：【実践報告】埼玉心会病院の取り組み—看護師

長 13 名との 1on1 ミーティングを通じて実現した当院の看護管理の概念化. 10, 914-917.

本間浩輔, 保田江美：【対談】看護現場に「1on1 ミーティング」がもたらす価値. 10, 918-924.

保田江美：看護実践で培った力をスタッフの経験学習の支援に活かす. 10, 926-928.

11月号

セルフ・コンパッション リーダーが自分を思いやることで組織が豊かになる

岸本早苗：【解説】セルフ・コンパッションとマインドフルネス—一生懸命なあなたへ、自分をいたわるひとときを持ちませんか？. 11, 970-977.

岸本早苗：【コラム】マインドフルネス・ストレス低減法（MBSR）とマインドフル・セルフ・コンパッション（MSCTM）について. 11, 974-975.

岸本早苗：セルフ・コンパッションとリーダーシップ—医療専門職の心の健やかさが医療の質・安全を高める. 11, 978-982.

岸本早苗：海外の医療機関におけるセルフ・コンパッションやマインドフルネスを取り入れた先進的取り組み—医療専門職のセルフケアからパブリックヘルスの視点での実践と研究. 11, 983-987.

岸本早苗：3 人の看護師長のケースで学ぶ—感情をコントロールできないときに、自分を大切にするためのエクササイズ. 11, 988-998.

川野泰周, 岸本早苗：【対談】自分への気づきと思いやりが創造的な組織づくりにつながる—セルフ・コンパッションとマインドフルネス. 11, 1000-1007.

12月号

どうする？ どうなる？ 2021 年の継続教育計画ウィズコロナ時代の人材育成を考える

密山敦子：【実践報告】市立札幌病院の取り組み—現任教育と臨地実習への対応を契機とした新たな発見. 12, 1062-1064.

岩崎景子：【実践報告】東京ベイ・浦安市川医療センターの取り組み—「覚える」ことから、「わかる」学習スタイルへオンライン研修のチャレンジ. 12, 1065-1067.

田中淳子, 島田朋子：【実践報告】横浜市立大学附属病院の取り組み—新たな看護部目標に則した教育研修プログラムの見直しと新採用看護職の支援. 12, 1068-1070.

庄司邦枝, 松宮枝利子：【実践報告】横浜市民病院の取り組み—5 月の新築移転をはさみ体制を整えて進めた教育計画. 12, 1071-1073.

佐野和枝：【実践報告】静岡県立こども病院の取り組み—COVID-19 の 2020 年度の人材育成への影響とそれを踏まえた 2021 年度の新規採用者教育計画の検討. 12, 1074-1076.

木本正美：【実践報告】市立豊中病院の取り組み—集合研修を基盤にeラーニングを有効活用したブレンド型教育の実現—COVID-19への対応を契機に。12, 1077-1079.

ウィリアムソン彰子, 西田郁子, 神田友規：【実践報告】神戸大学医学部附属病院の取り組み—「集合」をせずに, 「集合研修」を継続するために—WEB会議システムのメリットを最大限に活かす。12, 1080-1083.

樋口圭子, 姫野美佐子, 小原智恵子, 森山由香：【実践報告】飯塚病院の取り組み—セル看護提供方式®でのOJT強化—コロナ禍における人材育成の実践。12, 1084-1086.

松本沢子, 宮下恵里：【実践報告】済生会熊本病院の取り組み—Education-Nurseの活用と新人看護師教育におけるアクティブラーニングの取り組み。12, 1087-1090.

特別記事

岡山慶子, 末安民生, 北岡賢剛, 保坂健二郎：【座談会】ケアとは何か—アール・ブリュットから受けとるもの。1, 48-55.

稲野聖子：急性期病院が主導する地域包括ケアシステムにおける意思決定支援—大阪府池田市の取り組み。3, 270-275.

小林美亜, 瀬戸僚馬：「情報共有シート」の開発と「回復期等移行チェックリスト」の電子化—地域医療構想における連携を推進するために。4, 364-371.

鈴木幸雄：「ナッジ」があなたの医療現場の明日を変える—行動変容や意思決定を後押しする行動デザイン手法。5, 454-462.

森脇睦子, 坂元与志子, 新井貴子, 長田恵子：退院支援に関するスクリーニング評価に関する実態調査—実践家と「分析屋」が協同した質評価の試み。6, 554-559.

広瀬寛子：看護師の悲嘆とグリーフケア。6, 560-564.

長英一郎：【講演録】2020年度診療報酬改定への対応—地域・患者から選ばれる病院になるために。7, 654-661.

朝倉京子, 高田望, 杉山祥子：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のアウトブレイクが看護職に与える心理的影響—宮城県内の病院に勤務する看護職を対象とした実態調査。8, 756-762.

近本洋介：「COVID-19緊急事態下における看護師支援ツール」—スタッフの心身の健康, 働きがいを支えるために。9, 850-853.

篠田道子：シリーズ フランスの看護管理者教育と活躍する管理者たち①—フランスの高等教育課程と看護管理者養成教育。9, 854-858.

篠田道子：シリーズ フランスの看護管理者教育と活躍する管理者たち②—グランゼコール EHESP による保健医療福祉のトップマネジャー養成。10, 930-934.

篠田道子：シリーズ フランスの看護管理者教育と活躍する管理者たち③—保健医療管理職養成教育は臨床のマネジャーを養成。11, 1010-1014.

前田留美, 徳山薫：「学習目標の明確化」は, 新人看護師と教育担当者に何をもたらしたのか—効果的で・効率よい・魅力ある部署別研修を目指して。12, 1094-1098.

篠田道子：シリーズ フランスの看護管理者教育と活躍する管理者たち④—コーディネーター看護師は高齢者施設・在宅ケアの連携の要。12, 1100-1104.

実践報告

大塚渉, 佐藤妙子, 治久丸直美, 吉村修平, 菅亜希子, 伊東美緒：白内障術前オリエンテーションにおけるDVD導入の効果—高齢患者の手術に対する理解度の向上と, 看護師の業務の効率化を目指して。3, 276-279.

長谷川よし子, 宮腰美月子, 浅川陽子：地域包括ケア病棟運営における多職種連携—クローバーホスピタルの取り組み。5, 464-466.

谷井真弓, 高坂久仁子, 久原みな代, 一色裕美, 吉井栄子, 藤原紀子：臨床におけるリサーチナース導入への取り組み—ワーキンググループ設立と看護基準作成のプロセス。11, 1016-1020.

菊地美登里：新人看護師が困難を乗り越え成長する力を培う面談「しんじんの時間」の取り組み。11, 1022-1026.

古井知恵子, 塩沢嘉乃, 山梨美鈴, 内田聡美, 松本志保子, 中村益代, 望月節子, 増田直樹, 鈴木有貴：看看連携ネットワークにおける「認定看護師等リソースナース活用制度」の取り組み—焼津市における看護・介護の質向上を目指して。12, 1106-1109.

TOPICS

勝原裕美子：新型コロナウイルス感染症に立ち向かう看護師へのエール。6, 571.

NA レポート

Nursing Now! 2020年を盛り上げるキャンペーン。1, 57.

第50回日本看護学会—看護管理—学術集会開催—「新・看護管理—看護の原点をみつめ未来を拓く」をテーマに。1, 79.

日本臨床看護マネジメント学会が「全国看護部長会」を発足—「M-S-Tメソッド」マネジメントスキル・ワークショップを開催。5, 467.

患者・地域から選ばれる病院をめざす!—「看護管理者のための診療報酬改定セミナー」開催—宇都宮宏子氏, 長英一郎氏を講師に。7, 662.

第24回日本看護管理学会学術集会開催—「看護管理の革新と発信」をテーマに初のオンライン開催。11, 1034-1035.

開催レポート

石垣靖子先生オンラインレクチャー&対話会—新型コロナウイルス対応の中で, 現場に起きているジレンマを共有し, 語り合う。8, 693-695.

巻頭

あしたのマネジメントを考えるヒント、 このひとに聞く

- (12) 宇田川元一氏—組織の実践力を上げることに、「ナラティブ・アプローチ」がどのように、機能するのか、教えてください。7, 591-595.

巻頭シリーズ

【石垣靖子氏対話シリーズ】看護と倫理 尊厳を護るケアの担い手として

- (1) 石垣靖子, 石谷邦彦: 医療の本質はやさしさにある—東札幌病院が築いた人間尊重の医療 [前編]. 1, 1-6.
(2) 石垣靖子, 石谷邦彦: 医療の本質はやさしさにある—東札幌病院が築いた人間尊重の医療 [後編]. 2, 97-101.
(3) 石垣靖子, 清水哲郎: 臨床実践者と哲学者の協働が紡ぐ「医療の哲学」—QOL という概念を探求する営み [前編]. 3, 201-206.
(4) 石垣靖子, 清水哲郎: 臨床実践者と哲学者の協働が紡ぐ「医療の哲学」—QOL という概念を探求する営み [後編]. 4, 313-318.
(5) 石垣靖子, 清水哲郎, 会田薫子: わが国の臨床倫理への取り組みはどこまで進んだか—臨床倫理プロジェクトの活動から振り返る [前編]. 5, 405-410.
(6) 清水哲郎, 石垣靖子, 会田薫子: わが国の臨床倫理への取り組みはどこまで進んだか—臨床倫理プロジェクトの活動から振り返る [後編]. 6, 495-500.
(7) 石垣靖子: [石垣靖子先生オンラインレクチャー] いま、現場が抱える倫理的課題と向き合うために—現場力を高めよう!. 9, 785-789.
(8) 石垣靖子, 濱口恵子: 病院組織における倫理的実践を構成する要素を紐解く [前編]. 10, 881-886.
(9) 石垣靖子, 濱口恵子: 病院組織における倫理的実践を構成する要素を紐解く [後編]. 11, 959-964.
(10) 石垣靖子, 小藤幹恵, 山岸紀子: 看護部長の哲学—臨床倫理に真摯に取り組む組織・地域をつくる [前編]. 12, 1051-1056.

アートとケア

アール・ブリュットから受けとるもの

- (1) 辻哲夫: アール・ブリュットに思う. 1, 10.
(2) 渡邊芳樹: アール・ブリュットの持つ力. 2, 102.
(3) 北山修: アール・ブリュットは分からない. 3, 207.
(4) アサダワタル: アール・ブリュットがもたらす「まなざし」. 4, 319.
(5) 青柳正規: アール・ブリュットがつくる、シームレスな社会. 5, 412.
(6) 山元恵子: アール・ブリュットのささやきと看護. 6, 502.
(7) 犬塚潤一郎: 外にある者の声に希望を聞く. 7, 596.

- (8) 上坂真人: アール・ブリュットと私たち自身の解放. 8, 696.
(9) ケネス, アーノルド: 光さしこむところ—アートと医療の交点. 9, 790-791.
(10) 稲葉俊郎: コンクリートに咲く花. 10, 887.
(11) 田島光浩: 人生は楽しい. 11, 965.
(12) 岡山慶子: それが生きることだと教えてくれる. 12, 1057.

連載

患者エクスペリエンス

もしも患者の内なる声が聞こえたら

近本洋介

- (1) PX とは何か, その目指すところとは. 1, 58-62.
(2) PX 実践のゴールドスタンダード「目的的回診」. 2, 186-189.
(3) PX の基盤となるクオリティの高いコミュニケーション. 3, 290-294.
(4) 「共感」の活性化に基づく患者エクスペリエンス向上とその限界. 4, 374-378.
(5) 新型コロナウイルスによる緊急事態下で考える患者エクスペリエンス. 5, 468-472.
(6) 患者の自律性の発揮を支援する. 6, 566-570.
(7) 「患者・家族アドバイザー委員会」患者を“舞台裏”に招く患者エクスペリエンス. 7, 664-669.
(8) 心身の休まる時空間を設計する. 8, 764-768.
(9) PX 改善を目指す看護師支援のためのコーチング. 9, 860-864.
(10) 医療スタッフ間のやりとりで潜む患者エクスペリエンス向上の阻害要因. 10, 936-939.
(11) 患者エクスペリエンスから, ケア・エクスペリエンスへ. 11, 1028-1031.
(12) 日本におけるケア・エクスペリエンスの将来に向けて. 12, 1112-1116.

おとなが読む絵本

ケアする人, ケアされる人のために

柳田邦男

- (162) メタファー (隠喩) は絵本の真骨頂. 1, 88-89.
(163) 愛することは, いつもせつなくて. 3, 310-311.
(164) 銅版画の深い叫びを読み解く. 4, 396-397.
(165) 野辺の小さき者たちへの讃歌. 5, 486-487.
(166) ドングリ 1 個からの人生哲学. 6, 584-585.
(167) 危機の中でこそ, 感性の再生を. 7, 684-685.
(168) 大地と家族と子どもが生きること. 8, 778-779.
(169) 子どもが知性に向かって飛躍する瞬間. 9, 872-873.
(170) 人も宇宙も物語でできている. 10, 950-951.
(171) 亡き子との 35 年, 母親の再生と成熟の結晶. 11, 1042-1043.

(172) 大自然のいのちの壮大な物語. 12, 1124-1125.

看護の可視化

量と質の両面から適切な評価を考える

秋山智弥

(24) クリニカルラダー・5. 1, 70-72.

(25) クリニカルラダー・6. 2, 180-184.

(26) クリニカルラダー・7. 3, 284-288.

進化するチーム医療への旅

今求められるレジリエンスとは？

清水広久

(21) チームを進化させるには①—溝に橋を架ける. 1, 84-87.

(22) 「ファシリテーター」という在り方①—場とは何か. 3, 300-303.

(23) 「ファシリテーター」という在り方②—炎の中に立つこと “Standing in the Fire”. 4, 384-387.

(24) マルチステークホルダー・ダイアログの実際①—他人の靴を履いてみる. 5, 474-477.

(25) マルチステークホルダー・ダイアログの実際②—1+1>2を生み出す場. 6, 578-581.

(26) マルチステークホルダー・ダイアログの実際③—オープン・スペース・テクノロジーと旅の終わりに. 7, 670-674.

マグネットジャーニー

聖路加国際病院のチャレンジ

柳橋礼子, CNSと管理の研究会: (12) 看護の質指標 (QI) —ベンチマーク評価へのチャレンジ. 1, 80-83.

鈴木千晴, CNSと管理の研究会: (13) マグネット認証の最後の関門—マグネットジャーニー6年間の軌跡. 3, 280-283.

「看護」の意味を見つめる

訪問看護の実践から

藤田愛

(9) 救えなかった命と叶えられなかった「最後まで家で過ごしたい」. 1, 74-78.

(10) もし時計の針が戻せたら—夫の最期に立ち会えなかった妻の落胆と判断を誤った私の後悔. 3, 296-298.

(11) 「僕、恋をします」と入所を決めた男性. 4, 380-383.

ラーニング・エイド

大学院ドタバタ留学記 in NY

寺本美欧

(4) 変われ看護師, 私のハビット・チェンジ. 1, 73.

(5) 悩め看護師, 私はニュー Yorker? . 2, 185.

(6) つながれ看護師, “マイプレジャー” の精神. 3, 289.

(7) 立ち向かえ看護師, 「ちょうどいい」のその先へ. 4, 395.

(8) 負けるな看護師, おきあがりこぼしのようなリーダーに. 5, 484.

(9) 拓け看護師, 学びの未来. 6, 577.

(10) 立ち止まれ看護師, 小休止から生まれるリフレクション. 7, 675.

(11) 広がれ看護師, 多様性の中で生きること. 8, 777.

(12) 越えて看護師, 私の枠組みとは. 9, 865.

(13) 覗いて看護師, 外側から見た看護の世界. 10, 949.

(14) 集まれ看護師, オンラインで待ち合わせ. 11, 1033.

(15) 表現せよ看護師, 経験をアートに込めて. 12, 1105.

明日を変えるコーチング

勝原裕美子, 山之上雄一

(1) 看護師長としての自信が持てなくて……—自分の言葉で目標を語り, 組織を動かすエネルギーを注入する. 1, 64-69.

(2) 仕事に満足感や充実感を感じられなくて……—思い込みにとらわれず, 主体的に行動を起こすための関わり. 2, 190-195.

(3) 年度末はスタッフのやりくりが大変で……—リソースに目を向け, 勇気が湧くような関わりをするには. 3, 304-308.

(4) 不安を“見える化”し, 行動に結びつける—「この春に異動となり, 何か漠然とした不安を感じています」. 4, 388-392.

(5) 問題を個人ではなく, 人や環境などとの相互作用で捉える—「新しく来た主任と, もともといた主任の関係がうまくいっていないんです」. 5, 478-482.

(6) 迷いを整理し, 自分の「役割」「軸」を確認する—「病棟で患者さんのお金がなくなったんです」. 6, 572-576.

(7) 新型コロナウイルスに対応する「不安」や「恐れ」と向き合う—「今までにないしんどさを感じています……」. 7, 678-683.

(8) 疑似体験と俯瞰視点で相談者の価値観を引き出す—「大学院に進学したいと思っているのですが……」. 8, 770-775.

(9) 認知を変えることで, 心地よい距離感を取り戻す—「感染が心配なので訪問に来ないでほしいと言われました……」. 9, 866-870.

(10) 変化を起こすため, 新しいアクションを行う—「新しく着任した医師との関係に困っています……」. 10, 940-945.

(11) 相談者の視野を広げ, 多様性に柔軟に対応する—「他の新人と違う看護師と, どう関わったらいいかわかりません……」. 11, 1036-1040.

(12) 違和感を払拭し, 大切にしてきた価値観を新たな役割

に統合する—「予想していなかった異動の打診がありました……」, 12, 1118-1122.

書評

山浦晴男：『看護現場学への招待—エキスパートナーは現場で育つ 第2版』, 3, 268.

清水多嘉子：『レジリエント・ヘルスケア入門—擾乱と制約下で柔軟に対応する力』, 6, 582.

渡邊大地：『看護のためのファシリテーション—学び合い育ち合う組織のつくり方』, 7, 676.

内藤知佐子：『看護のためのファシリテーション—学び合い育ち合う組織のつくり方』, 9, 859.

小澤知子：『固定チームナース—責任と継続性のある看護のために 第4版』, 10, 947.

松浦賢長：『発達障害のある看護職・看護学生支援の基本と実践』, 11, 1015.

栗生田友子：『回復期リハビリテーション病棟マニュアル』, 12, 1110.